

熊本県上益城郡山都町

熊本地震を契機に生まれ変わった酒蔵 目指すのは地域全体の発展

1770年に造り酒屋として創業。地元の米と熊本酵母を使った日本酒の製造・販売を行う。熊本地震で被害を受けた酒蔵をリノベーションした「寛政蔵」は、日本初の有料試飲スペースつき観光酒蔵として注目されている。付加価値の低さに苦しむなか、地震で傾いた蔵を前に「このまま再建しても、ジリ貧」と新たな再建策を模索。米・カリフォルニア州・ナパの観光ワイナリーを参考に、日本酒の良さを伝え、楽しむ空間へと進化させた。

●所在地	熊本県上益城郡山都町浜町54	●設立	1770年
●電話/FAX	096-772-1177/096-772-0421	●資本金	1,200万円
●URL	https://tuzyun.com	●従業員数	14人
●代表者	代表取締役 山下 泰雄		



日本初！有料試飲スペースつき観光酒蔵

1792年創建の酒蔵「寛政蔵」をリノベーションした観光酒蔵がある。内装には、年輪を刻んだ梁や柱を残しながら、モダンな木組みが施され、石畳や錦鯉の泳ぐ前庭を眺めながら、試飲を楽しむことができる。ソムリエによる日本酒の飲み方や特徴の説明、着物による接客、酒質にあうワイングラスでの提供等、高級なサービスを提供。2019年3月のオープン以来、来場者は9か月で13,000人を超えた。酒造り行程の案内→試飲→お土産購入、という社会科見学型の酒蔵観光を超えたものとなっている。



館内でゆったりと試飲

貫く社は「地域の発展なくして企業の発展なし」

酒蔵に観光客を呼び込むことは、自社のみならず山都町全体の振興を狙ったもの。その姿勢は蔵の運営に現れている。例えば、自社では食事提供をしないことで、地域の飲食店の利用を促進する。蔵での滞在時間が長くなる仕掛けをつくり、宿泊需要を創出。また、酒米を作る地元の農家への還元や農業体験などの新たな観光資源への発展までも狙う。その他、マルシェ・書道展・写真展など、イベント会場としても開放している。そこには「日本酒の楽しみ方を発信し、山都町の経済をけん引したい」という想いがある。



酒蔵内で開かれたイベント

現代のニーズをとらえ、販売も製造も進化中

TwitterやFacebookを積極的に活用、情報発信するとともに顧客のニーズを把握、商品開発などに役立てている。「おり酒」「微発泡酒」へのニーズをとらえ、商品化へ繋げた。これによって、これまで廃棄していた、お酒を搾った際にでる「おり」を再利用することにも繋がった。また、デザイナー、アニメ等とコラボ、パッケージデザインにもこだわる。地元で伝わる宝刀「蛭丸」をイメージした純米吟醸「蛭丸」は、刀剣女子に人気となり、コミケへ出店するなど、新たなファンを開拓している。



コミケへ出展、新たな市場へ